

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康の問題は、健康づくり、疾病の予防、リハビリテーションの各レベルにおける個人や社会の対応の問題として捉えられるが、近年その解決に当たっては地域社会を基盤として取り組むことが高まってきている。そこで、本講義では、①地域社会の変容およびそれに付随して発生している地域の多様な健康問題について理解を深める。②地域社会における健康対策の考え方や地域保健活動の重要性について理解し、地域保健を推進するための能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。地域保健について
2	地域社会と健康問題 都市化社会と健康
3	地域社会と健康問題 生活意識と健康
4	健康問題の変容とその対策の変化
5	地域保健に関わる圏域の設定と課題
6	地域保健活動に関わる主体と特徴
7	保健・医療・福祉と市町村の役割
8	保健・医療・福祉に関する計画
9	保健・医療・福祉の連携と統合 供給体制の統合化
10	保健・医療・福祉の連携と統合 具体的展開
11	世界と日本における健康づくり活動の動向
12	健康都市づくり（ヘルシー・シティ）の考え方
13	健康都市とその活動事例
14	健康日本21と健康増進法
15	まとめと確認

【履修上の注意事項】

日々報道される健康問題のニュースに関心をはらうことが望ましい。また、受講の前にはシラバスに沿って該当する内容に関連する項目等について学習することが望まれる。

【評価方法】

- ①レポートの提出、期末試験の総合点で判定する。したがって、受講する学生は、シラバスに沿って、事前学習および事後学習を行い、課題についてもきちんと提出するように心がけること。
- ②評価の方法は、レポート10%、試験90%の割合で行う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

必要に応じて資料を配布する。参考書については、適宜講義の中で指示する。

環境生物学

担当教員 松岡 正佳

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少数の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウイルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウイルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外來分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第2版、Jones and Bartlett Learnings (2010年、英文)

統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

EBM(Evidence Based Medicine)、EBN(Evidence Based Nursing)などの言葉に代表されるように、得られたデータを客観的、論理的に分析し、その結果に基づいて意志・行動決定を行うという視点が医療従事者には必須となっている。そこで本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

01. 質的データと度数分布表・ヒストグラム
02. 量的データと代表値、分散
03. 正規分布、t分布、 χ^2 乗分布とその性質
04. 母平均・母分散・母比率の推定
05. 検定の考え方、第1種・第2種の過誤
06. 母平均の検定、対応のある2つの母平均の差の検定
07. 対応のない2つの母平均の差の検定
08. ノンパラメトリック検定（順位和検定）
09. ノンパラメトリック検定（符号検定）
10. ノンパラメトリック検定（符号付き順位和検定）
11. 母比率の検定（対応のある場合、ない場合）
12. 適合度の検定、独立性の検定
13. イェーツの補正、マクネマー検定
14. 相関関係と相関係数
15. 回帰分析

【履修上の注意事項】

テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからないことは、わからないまま済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】

筆記試験の結果で判断する。再試験は行なう。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

適宜紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるのもよいだろう。

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章、

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から看護学について理解する。

【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	災害時における看護（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	サービスとしての看護・看護サービス提供の場（古堅）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
10	看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学（1）』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

解剖生理学 I

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	栄養の消化と吸収	消化器官の構造 二科
2		消化器官の構造 二科
3		消化器官の機能 二科
4		消化器官の機能 二科
5	呼吸器と血液の働き	呼吸器の構造 二科
6		呼吸器の機能 二科
7		血液の成分 二科
8		血液の機能 二科
9		血液の機能 二科
10	血液の循環と調節	心臓の構造 二科
11		心臓の機能 二科
12		循環調節の機構 二科
13	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造 二科
14		腎臓の機能 二科
15		体液調節の機構 二科

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	内臓機能の調節 自律神経の構造 二科
2	自律神経の機能 二科
3	自律神経の機能 二科
4	内分泌系の構造 二科
5	内分泌系の機能 二科
6	内分泌系の機能 二科
7	身体の支持と運動 骨と筋の構造 二科
8	骨と筋の機能 二科
9	情報の受容と処理 中枢神経の構造と機能 二科
10	中枢神経の構造と機能 二科
11	末梢神経の構造と機能 二科
12	特殊感覚の構造と機能 二科
13	外部環境への対応と防御 二科
14	生殖、発生および老化の仕組み 二科
15	生殖、発生および老化の仕組み 二科

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学Ⅰと同じ教科書を使用する。

解剖生理学 人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】

なし。

生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食物と健康という観点から基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。なお、医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食事指導を効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食と環境)
2	食生活の課題(食習慣と栄養・スポーツと栄養 栄養状態の評価と方法)
3	日本人の食事摂取基準(栄養素別基準・食品群別摂取量・摂取エネルギーの算定・活動代謝)
4	栄養指導・保健指導(栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝(1)炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝(2)脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝(3)ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収(食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養(妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養(学童期・思春期・)
11	ライフステージと栄養(成人期・老年期)
12	病態時の栄養(1)栄養障害・疾患別食事指導の実際
13	病態時の栄養(2)疾患別食事指導の実際
14	病態時の栄養(3)疾患別食事指導の実際
15	病態時の栄養(4)疾患別食事指導の実際(経管栄養と中心静脈栄養・NST)

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること

【評価方法】

筆記試験85% 課題レポート10% 学習態度5%

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学(三共出版) 基礎栄養学(第一出版) 日本人の食事摂取基準(2015年版) 七訂補日本食品成分表、国民衛生の動向29年版 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表、応用栄養学(医歯薬出版)

感染症学

担当教員 樋口 マキエ、齋田 和孝、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働きについて、② 病気の原因となる微生物（病原微生物）の分類と特性（構造、性質、病原性）について、③ 感染の成立と生体防御機構、代表的感染症の起原菌と臨床症状、特殊な患者における感染症について、④ 看護における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。

【授業の展開計画】

【授業内容】

【授業担当者】

【授業日程】
(H29) 10:50-12:20

- | | | |
|---|------|----------|
| 1) 感染症学概論、自然免疫と常在正常細菌叢の働 | (三森) | 4/07 (金) |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構） | (三森) | 4/14 (金) |
| 3) 細菌と感染(特徴) | (三森) | 4/21 (金) |
| 4) 真菌と感染、原虫と感染 | (三森) | 5/12 (金) |
| 5) 病原微生物の分類と特性：ウイルスと感染、寄生虫 | (三森) | 5/19 (金) |
| 6) 感染症の診断における臨床検査（小テスト） | (三森) | 5/26 (金) |
| 7) 感染に対する生体防御機構、ワクチン接種 | (齋田) | 6/2 (金) |
| 8) 感染経路と感染症の症状（臨床像）、医療関連感染とその制御 | (齋田) | 6/9 (金) |
| 9) 特殊な患者における感染症（新生児、妊婦、高齢者、がん患者）
新興・再興感染症、 | (齋田) | 6/16 (金) |
| 10) 医療現場における感染防止対策（感染管理認定看護師：熊大附病 非常勤講師） | | 6/23 (金) |
| 11) 殺菌薬、化学療法について | (樋口) | 6/30 (金) |
| 12) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本 | (樋口) | 7/07 (金) |
| 13) 抗菌薬（抗生物質） | (樋口) | 7/14 (金) |
| 14) 抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬、抗真菌薬 | (樋口) | 7/21 (金) |
| 15) 抗原虫薬、抗ウイルス薬、殺菌薬 | (樋口) | 7/28 (金) |
| 16) 単位修得試験（10:50～12:20：90min） | (樋口) | 8/04 (金) |

【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(4/08～7/28)を精読し自己学習する。
②「コメディカルのための薬理学 第2版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(6/23～8/04)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
- 2) 授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3) 教員作成プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第2版(渡辺、樋口/編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学Iでも使用-

【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め： 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

薬理学

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。日進月歩の薬物療法が、医療・看護の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

【授業の展開計画】

【授業内容】

原因療法薬（化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬）については、感染症学と病態生理学Ⅰで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

【授業日程】

薬理学総論

平成28-29年16:30-18:00（火）

1. 薬とは、治験、薬と法令
生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬 9/20（火）
2. 生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係 9/27（火）
3. 薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬の動きと反応に影響を与える因子 10/04（火）
4. エイジングと薬 10/18（火）

生体の機能異常（病態）と薬

5. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作働薬・遮断薬） 10/25（火）
6. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作働薬・遮断薬） 11/01（火）
7. 末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覚神経作用薬（局所麻酔薬） 11/08（火）
8. 代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬 11/15（火）
9. 免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDs）、ステロイド性抗炎症薬 11/22（火）
10. 循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬 11/29（火）
11. 循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬 12/06（火）
12. 循環系作用薬：心不全治療 12/13（火）
13. 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 12/20（火）
14. 中枢神経系作用薬：睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、 1/10（火）
15. 中枢神経系作用薬：抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬 1/17（火）

16. 単位修得試験 1/30（月）

【履修上の注意事項】

- 1) ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 3) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
- 4) 授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

- 1) コメディカルのための薬理学 第2版（渡邊、樋口/編、朝倉書店 3,900円）
- 2) 教員作成プリント

【参考文献】

- 1) 看護の基礎固め ひとり勝ち 薬理学（自律神経系） 片野/編 メディカルレビュー社 1,600円
- 2) 薬理学 第13版 吉岡、泉、伊関著、医学書院 2,300円
- 3) 『今日の治療薬2016』 浦部、島田、川合編、南江堂

解剖生理学Ⅲ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能についての理解をより深めるため、本講義ではミクロの世界にも注意を払いつつ解剖生理学の勉強を完結する。原子、分子、細胞に関する問題が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	人体の階層性	分子、原子から個体へ 二科
2		分子、原子から個体へ 二科
3		分子、原子から個体へ 二科
4	人体の素材としての細胞	細胞の構造 二科
5		細胞を構成する物質 二科
6		細胞を構成する物質 二科
7		細胞におけるエネルギー生成 二科
8		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
9		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
10		膜電位発生の機構（心電図、脳波、筋電図への応用） 二科
11		細胞の増殖と染色体 二科
12		組織の分類とその機能 二科
13	体液とホメオスタシス	二科
14	植物機能について	二科
15	動物機能について	二科

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学Ⅰと同じである。
解剖生理学、人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】

なし。

病態生理学 I

担当教員 掃本 誠治、樋口 マキエ、大河原 進

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学と生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	病理学入門、代謝障害 (1) 細胞の障害、物質沈着	(大河原)
2	循環障害 (1) 局所性の循環障害	(大河原)
3	循環障害 (2) 全身性の循環障害	(大河原)
4	腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類、発生原因	(大河原)
5	腫瘍 (2) 腫瘍の発生病理、転移と進行度	(大河原)
6	腫瘍 (3) 腫瘍の診断	(大河原)
7	腫瘍 (4) 腫瘍の治療	(大河原)
8	腫瘍 (5) 腫瘍の診断と治療 (化学療法)	(樋口)
9	代謝障害 (2) 脂質障害、タンパク質代謝、糖質代謝、他	(掃本)
10	感染症	(掃本)
11	老化と死	(掃本)
12	炎症と免疫 (1) 炎症、免疫	(掃本)
13	炎症と免疫 (2) 免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	(掃本)
14	先天異常 (1) 先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患	(掃本)
15	先天異常 (2) 染色体異常、胎児の障害、診断	(掃本)

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

筆記試験 (100%) で評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

看護技術 I

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学ぶ。

【授業の展開計画】

詳細な計画および担当者については、第1回目の講義で説明する。

1～15は講義予定、16～30は演習予定である。演習はグループに分かれて行うので、2回続きの内容の場合はグループ毎に学習内容が異なる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、コミュニケーション（柴田）	16	コミュニケーション（基礎担当者）
2	環境調整技術（柴田）	17	手洗い、ベッドメイキング（基礎担当者）
3	活動と休息援助技術（古江）	18	体位変換、ベッドメイキング（基礎担当者）
4	食事援助技術（古堅）	19	体位変換、移送（基礎担当者）
5	排泄援助技術（新）	20	A：排泄介助、B：食事介助（基礎担当者）
6	洗髪（古堅）	21	B：排泄介助、A：食事介助（基礎担当者）
7	清拭、和式寝衣交換（古堅・古江）	22	A：清拭・足浴、B：無菌操作（基礎担当者）
8	感染予防の技術（上妻）	23	B：清拭・足浴、A：無菌操作（基礎担当者）
9	小テスト1、看護過程の構成要素（柴田）	24	A：バイタルサイン、B：寝衣交換（基礎担当者）
10	呼吸、循環を整える技術（上妻）	25	B：バイタルサイン、A：寝衣交換（基礎担当者）
11	ヘルスアセスメント（上妻）	26	実技試験1、バイタルサイン（基礎担当者）
12	安全確保の技術（上妻）	27	A：洗髪、B：バイタルサイン（基礎担当者）
13	安楽確保の技術（上妻）	28	B：洗髪、A：バイタルサイン（基礎担当者）
14	看護過程：アセスメント（柴田）	29	実技試験2、罨法（基礎担当者）
15	小テスト2、看護過程、看護記録（柴田）	30	口腔・陰部ケア（基礎担当者）

【履修上の注意事項】

講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているため、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40%

【テキスト】

- ①『系統看護学講座・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』有田清子他（医学書院）②『看護技術プラクティス』竹尾恵子（学研）
 ③『ナース・ワークアップ』古橋洋子（文光堂）④『実践に役立つ看護過程と看護診断』三上れつ（ヌーヴェル ビヨウ）

【参考文献】

『イラストでわかる基礎看護技術』、『なぜ？がわかる 看護技術LESSON』、『臨床看護技術ガイド』
 『考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』、『ビジュアル看護技術 基礎看護技術』、『基礎看護学テキスト』

看護技術Ⅱ

担当教員 上妻 尚子、柴田 恵子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。

【授業の展開計画】

第1回目の講義で詳細な計画を説明する。第9回・12回の講義時に小テストを行う。16回から30回は演習を行う。演習は1クラスを2グループに分け、2つの演習項目を基礎看護実習室と424教室に分かれて実施する。演習は、各看護技術の実施方法のみならず実施前のアセスメントおよび実施後の評価についての学習を含む。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・フィジカルアセスメント（上妻）	16	フィジカルイグザミネーション（担当者全員）
2	創傷管理技術（上妻）	17	A:創傷管理技術 B:採血（担当者全員）
3	症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	18	A:採血 B:創傷管理技術（担当者全員）
4	食事の援助技術-経管栄養法など-（古堅）	19	A:演習記録 B:経管栄養（担当者全員）
5	排泄の援助技術（浣腸・導尿など）（新）	20	A:経管栄養 B:演習記録（担当者全員）
6	与薬の援助技術の基礎（上妻）	21	A:皮下注射 B:浣腸・排便（担当者全員）
7	与薬の援助技術の実際（古江）	22	A:浣腸・排便 B:皮下注射（担当者全員）
8	呼吸・循環を整える技術-酸素吸入-（上妻）	23	A:酸素 B:直腸内 筋肉注射（担当者全員）
9	呼吸・循環を整える技術-吸引など-（上妻）	24	A:直腸内 筋肉注射 B:酸素（担当者全員）
10	症状・生体情報モニタリングの技術（上妻）	25	A:口腔・気管内吸引 B:導尿（担当者全員）
11	診察・検査・処置の介助技術（上妻）	26	A:導尿 B:口腔・気管内吸引（担当者全員）
12	救命救急処置術（上妻）	27	フィジカルアセスメント（担当者全員）
13	死の看取りの技術（柴田）	28	実技試験（担当者全員）
14	看護過程 全体像の作成（柴田）	29	看護過程 計画立案（担当者全員）
15	看護過程まとめ 看護記録（柴田）	30	看護過程 計画の評価と修正（担当者全員）

【履修上の注意事項】

講義前はテキストの該当項目を熟読し、提示された課題に取り組み、講義後は提示された資料を基に復習する。演習前は、提示症例に対する援助計画を立案し、演習によって各看護技術を習得する。演習後は、実施方法及びその評価を行って自身の演習内容を振り返り、今後の課題を明らかにする。演習時には、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加する。不適切な場合は、演習への参加ができないことがある。看護技術学習ガイドを活用して、自身の看護技術の学習進度を確認する。看護過程の講義および演習は、別途詳細な授業計画の提示あり。

【評価方法】

定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度（演習記録の提出を含む）：40%

【テキスト】

- ①「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」有田清子（医学書院）②「看護技術プラクティス」竹尾恵子（学研）
③「ナーシング・ワークアップ」古橋洋子（文光堂）④「実践に役立つ看護過程と看護診断」三上れつ（ヌーヴェルヒロカリ）

【参考文献】

「看護技術がみえる①・②」メディックメディア、「写真でわかる基礎看護技術①・②」インターメディアカ、「ビジュアル臨床看護技術」照林社、他

基礎看護学実習

担当教員 柴田、上妻、新、落合、緒方浩、柿山、喜多、北原、島村、戸田、古江、古堅、森口

配当年次 1～2年

開講時期 (1年)2学期、(2年)通年

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 本科目は、1年次第2学期から2年次第2学期までの開講科目

【授業のねらい】

日常生活援助を中心とした看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解する。

【授業の展開計画】

実習目標

1. 看護職者の専門性を認識する。
 - (1) 看護の提供の場について知る。
 - (2) 他職種との連携のあり方について知る。
2. 看護ケアの必要性を理解する。
 - (1) コミュニケーションを通して患者を理解する。
 - (2) 日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。
 - (3) 看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。
3. 基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。

*詳細については「臨地実習要項 ー基礎看護学実習ー」で確認すること。

【履修上の注意事項】

1. 必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。
2. 単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。
3. 学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員（担当教員および科目責任者）が協議をした上で実習を中止する場合がある。
4. 予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。

【評価方法】

基礎看護学実習Ⅰ（1年次）、Ⅱ（2年次）を総合的に評価する。
実習内容（学習・実践・記録）：60%、提出・健康管理・実習態度：40%

【テキスト】

その都度、紹介する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

臨床看護学総論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解する。
2. 健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習する。
3. 主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習する。
4. 臨床看護についての学びを総括することで、自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行なう。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族（柴田）
2	経過に基づく患者の看護（上妻）
3	主要症状を示す患者の看護：痛み、呼吸障害（上妻）
4	主要症状を示す患者の看護：意識障害（上妻）
5	主要症状を示す患者の看護：循環障害（上妻）
6	主要症状を示す患者の看護：消化・排泄障害（上妻）
7	小テスト1、グループワーク：症状と看護について（上妻）
8	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法・手術療法（古堅）
9	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法、化学療法（柴田）
10	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置、集中療法（古江）
11	小テスト2、看護過程：アセスメント（柴田）
12	看護過程：ペーパーペイシェントの情報整理（柴田）
13	看護過程：これまでの学習のまとめとグループ発表（柴田）
14	看護過程：看護計画の立案（柴田）
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）

【履修上の注意事項】

看護過程の学習は、同時期に開講される「看護技術Ⅱ」の授業計画に合わせて行われるので、両方の科目の計画を確認してください。第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。課題は授業の予習でもあるので、必ずレポートを作成することで課題を実施する。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

筆記試験：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出）：40%

【テキスト】

系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

小児看護学 I

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 子どもを取り巻く社会環境の変化について学び、説明することができる。
2. 多様化する子どもと家族の健康ニーズについて理解できる。
3. 健全な子どもの特性、および成長発達過程を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	小児看護学概論、小児とは、子どもの権利と家族、子ども虐待の理解ができる (宮里)
2	Physical Assessment が説明できる (松岡)
3	Physical Assessment が説明できる (松岡)
4	子どもを取り巻く社会、小児の観察、成長発達の一般原則と評価を理解できる (宮里)
5	小児に関わる理論を学び小児看護を学ぶ際に考えることができる (宮里)
6	看護過程演習1事例の看護過程演習①情報収集②事例のassessment (成長発達) の体験(二宮、松岡)
7	看護過程演習1事例の看護過程演習③事例のassessment(現症)を体験する(二宮、松岡)
8	子どもの健康と保健を理解する (二宮)
9	健康レベルに応じたFamily Centered Care を理解する(二宮)
10	技術演習①身体計測とvital signsの測定 ②調乳演習栄養・代謝の実際③与薬の実際(二宮、松岡他)
11	技術演習①身体計測とvital signsの測定 技術演習②調乳演習栄養・代謝の実際(二宮、松岡、TA)
12	Preparation学習グループでのpresentationを体験し、他者を評価でき、疑似体験ができる (二宮)
13	Preparation学習グループでのpresentationを体験し、他者を評価でき、疑似体験ができる (二宮)
14	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)
15	運動機能障害の観察の視点、ハンディキャップのある子どもへのCareを理解できる (二宮)

【履修上の注意事項】

1年次の専門科目であるmedical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。各個人に必要な事前学習を行ってこよう。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。*小児看護学は既修専門科目及び既修共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかってくることも事前学習とする。*小児看護実習、看護統合演習 I ・実習で、小児看護学の理論と実践の統合をはかってくることを前提にしていることから、事後の復習は、medical scienceを根拠とする小児看護学として理解できるレベルまでを求める。

【評価方法】

出席が開講回数数の2/3以上であることを評価の前提とする。

1. 定期試験に準じた試験 60%、小テスト20%
2. レポート及び演習 20%

【テキスト】

小児看護学①小児看護概論小児保健、小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集松尾宣武、濱中嘉代 メヂカルフレンド社、ナーシンググラフィカ小児看護学②小児看護技術 編集中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

「看護診断ハンドブック」 リンダ J ・カルペニート=モイエ著 医学書院、小児看護技術編集今野美紀、二宮啓子、南江堂、こどもの病気の地図帳、監修鴨下重彦、柳澤正義、講談社 講義中に配布される印刷教材、DVD

小児看護学Ⅱ

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 小児における主な疾患とその発達段階における特徴及びその疾患を持つ子どもの家族・社会的看護について学び説明できる
2. 子どもの権利を尊重し、健康の増進及び疾病の予防についての看護を学び説明できる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	疾患看護の学習方法、染色体異常・先天代謝異常、新生児疾患とその看護を理解できる(二宮)
2	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる①(松岡)
3	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ患児の看護を理解できる②(松岡)
4	看護過程演習 ①情報のassessment関連図 ②看護問題抽出が紙上でできる(宮里、二宮、松岡)
5	看護過程演習 ③看護問題から看護診断へ④看護計画が紙上でできる(二宮、宮里、松岡)
6	技術演習①ネブライザー吸入②持続点滴下での乳児の沐浴 の援助を体験する(宮里、二宮、松岡)
7	血液疾患を持つ患児の看護を理解できる (宮里)
8	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
9	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)
10	消化器疾患、脳神経疾患、内分泌疾患、代謝異常疾患、を持つ患児の看護を理解できる③ (二宮)
11	小児の救急・火傷を含めた事故とその看護、災害に遭遇した小児と家族の看護を理解できる (宮里)
12	CPCR、トリアージ、事例を通して看護職者としての看護倫理を考える事が理解できる(二宮)
13	腎疾患、筋肉・骨疾患を持つ患児の看護を理解できる (二宮)
14	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる① (二宮)
15	膠原病・アレルギー疾患、感染症、境界領域疾患を持つ患児の看護を理解できる② (二宮)

【履修上の注意事項】

1年次の専門科目であるmedical scienceなどの知識及び他の看護学の学習との関連なども含めて講義を進めていきます。各個人に必要な事前学習を行ってこよう。副教材に関しては事前に渡すことを目標とする。*小児看護学は既修専門科目及び既修共通科目と関連しているため、既修科目との統合をはかってくることも事前学習とする。*小児看護学実習、看護統合演習Ⅰ・実習で、小児看護学の理論と実践の統合をはかってくることを前提にしていることから、事後の復習は、medical scienceを根拠とする小児看護学として理解できるレベルまでを求める。

【評価方法】

出席が開講回数数の2/3以上であることを前提として総合評価を行なう。

1. 定期試験70%、小テスト20%
2. レポート、演習、グループワーク課題 10%

【テキスト】

小児看護学①小児看護学概論小児保健 小児看護学②健康障害を持つ小児の看護 編集 松尾宣武、濱中嘉代
メディカルフレンド社、ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 編者 中野綾美 メディカ出版

【参考文献】

監修 川野雅資 編集 中村伸枝、PILAR、小児疾患診療のための病態生理 1・2、第4版東京医学社、小児内科増刊、城ヶ端初子監修、実践に生かす看護倫理、他解剖生理学生化学等

小児看護学実習

担当教員 二宮 球美、宮里 邦子、松岡 聖美

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- I 子どもの権利を尊重し対象である子どもとその家族の健康問題を学び理解することができる。健康な子どものセルフケア能力をアセスメントし支援を考え、社会における小児看護職の役割を考察する。
- II 小児看護学の統合の場と位置付けられ、Critical Thinking, Communication, Assessment, Technincal skills を習得し、実習をとおり問題解決能力を高めることができる。

【授業の展開計画】

【小児看護学実習Ⅰ：保育所・園および小児看護学実習Ⅱ：病院、施設】

1. 実習期間：小児看護学Ⅰ（2日間）、小児看護学Ⅱ（8日間）
2. 実習場所：玉名・熊本市内の保育所・園および熊本県内の病院、重症心身障害児施設
3. 実習内容
 - 1) 小児看護学実習Ⅰ
 - ①健康な子どもの成長発達過程を理解し子どもの個別性、性差を理解することができる。
 - ②成長発達に応じたcommunicationをはかり、こどもと人間関係を構築し、成長発達する過程で学習する集団保育・幼児教育に参加できる。
 - ③子どもにとっての遊びの重要性を理解し、成長発達を促すかわりができ、個・集団の違いを理解しかかわることができる。
 - ④看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた事故防止感染防止活動の援助ができ、学生の自己課題の明確化と継続的な学習能力を身につけることができる。
 - 2) 小児看護学実習Ⅱ
 - ①ライフサイクルの中での小児期を理解し、成長を促すためのcareを考えることができ成長発達、健康の状態に応じた看護を理解できる。
 - ②小児の医療に必要な意義、方法を理解しfamily centered careを理解できる。
 - ③対象に応じたcommunication 技能と対人関係能力を学び、地域・医療・保健・福祉・教育との連携を理解し小児看護の役割の独自性を考察することができる。
 - ④子どもとその家族に必要な社会的資源・福祉サービスを理解することができる。
 - ⑤自己課題の明確化死説明できる。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、事前学習(知識・技術など)を行って、実習で小児看護の対象者へ看護を展開できるような状態にして実習に臨むこと
2. 必ず出席すること、実習中の欠席・遅刻・早退、それに準ずるものは原則として認めない
3. 学生が誓約した内容を遵守
4. 単位修得ができない場合は、翌年度に履修することになる。
5. 事後学習でライフステージにおける小児看護学と実践の統合をすること。

【評価方法】

- 出席が実習日数の3分の2以上であることを前提として、総合評価を行う。
1. 実習態度：50%（準備性、実施状況、個別性、応用性、修正の度合いなど）
 2. 実習記録とカンファレンス：50%（具体性、個別性、独自性、安全・安楽への取り組みなど）
- ※実習要項に示した自己評価と指導者および教員による評価を総合して、会議後評価判定する。

【テキスト】

「看護学実践 小児看護学」編集 中村伸枝 PILAR PRESS、「看護診断ハンドブック」リンダ J・カルペニート＝モイエ著 医学書院、その他看護に関連した共通科目・専門科目で用いたテキスト全て HPup資料も含む

【参考文献】

- ・『小児看護』2000.8ークリニカル・サインのチェックポイントー。へるす出版・medical science関連教科書
- ・小児看護学の教科書・参考書・授業中使用する印刷教材・資料、HP資料 など全て

成人看護学 I

担当教員 福島 和代、田中 紀美子、杉野 由起子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人看護学においては、成人期にある人およびその生活を理解し、健康の維持増進、疾病予防、疾病からの回復、ターミナル期の援助について学ぶ。

成人看護学 I は、まず成人期の人の特徴、看護を展開するために必要な概念を理解する。そして、健康の維持増進、疾病予防、急性期から慢性期にある人とその家族、手術を受ける人とその家族の健康問題と看護を学ぶ。さらに、生命維持の要である循環・呼吸機能に障害を持つ患者の看護を学ぶ。

【授業の展開計画】

下記展開で変更が生じた場合は、学生に変更計画を提示する。

回数	月日	時間	担当	内容
1回	4/7	(金) 5限	(福島)	: オリエンテーション・成人期にある人の理解①成長発達の特徴②生活と健康観
2回	4/14	(金) 5限	(福島)	: 成人期にある人の理解と看護③健康障害と看護④成人の学習の特徴
3回	4/21	(金) 5限	(福島)	: 看護に有用な概念 (ストレス、危機他)
4回	5/12	(金) 5限	(福島)	: 看護に有用な概念 (セルフケア、自己効力他)
5回	5/19	(金) 5限	(福島)	: 周手術期看護総論 (手術を受ける患者の理解、手術侵襲・麻酔侵襲の理解)
6回	5/26	(金) 5限	(福島)	: 手術前看護、術中看護、術後の看護
7回	6/2	(金) 5限	(杉野)	: 急性重症患者の看護
8回	6/9	(金) 5限	(田中)	: 心不全患者の理解 (心不全発症過程の理解)
9回	6/16	(金) 5限	(田中)	: 急性心不全、慢性心不全患者の看護
10回	6/23	(金) 5限	(田中)	: 虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞) 患者の看護
11回	6/30	(金) 5限	(田中)	: PCIを受ける患者の看護、心臓リハビリテーションの実際
12回	7/7	(金) 5限	(田中)	: 呼吸不全患者の理解 (呼吸不全発症過程の理解)
13回	7/14	(金) 5限	(田中)	: 呼吸不全患者 (ARDSとCOPD) の看護
14回	7/21	(金) 5限	(田中)	: 肺がんで肺切除を受ける患者の看護
15回	7/28	(金) 5限	(田中)	: 呼吸リハビリテーションの実際
16回	8/4	(金) 5限	(福島)	: まとめ

【履修上の注意事項】

成人看護学の学習内容は広範囲であり、解剖生理学・病態生理学と治療、基礎看護学等の知識が基盤となる。よってそれらの内容を教科書で十分に予習して授業に臨むことが必須である。また、毎回の授業後には復習をし、丸暗記ではなく内容を理解し、曖昧な点は積極的に質問して解決しておく。学習内容は3年次の成人看護学実習と直結している。患者の看護は、自分のことばで説明できるように理解しておかなければ実践できない。質の高い看護を実践できる能力を身に着けるために主体的な学習姿勢を望む。

【評価方法】

定期試験で(100%)評価する

【テキスト】

1. ナーシング・グラフィカ「成人看護学概論」メディカ出版
2. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院
3. 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

【参考文献】

1. ナーシング・グラフィカ「セルフマネジメント」「健康危機状況」メディ出版
- 2 「慢性期看護論」NOUVELLE HIROKAWA
3. 「周手術期看護論」 NOUVELLE HIROKAWA

成人看護学Ⅱ

担当教員 川本 起久子、福島 和代、喜多 麻衣子、島村 美香、田中 紀美子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人の多様な健康障害とその看護を学び、看護実践に必要な基礎知識を獲得することができる。健康障害を持つ成人患者の事例を通して具体的に看護過程の展開を理解できる。

【授業の展開計画】

講義3単位で展開する。下記展開で一部変更が生じた場合は、変更計画を学生に提示する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	造血機能に障害のある患者の理解 福島	16	肝機能に障害のある患者の看護 田中
2	造血機能に障害のある患者の看護 福島	17	糖尿病を持つ患者の理解 川本
3	免疫機能に障害のある患者の理解 福島	18	糖尿病を持つ患者の看護 川本
4	免疫機能に障害のある患者の看護 福島	19	腎不全患者の理解 田中
5	運動機能に障害のある患者の理解 喜多	20	腎不全患者の看護 田中
6	運動機能に障害のある患者の看護 喜多	21	心筋梗塞の患者事例の理解 田中
7	脳神経系に障害のある患者の理解 川本	22	看護過程① 島村
8	脳神経系に障害のある患者の看護 川本	23	看護過程② 島村
9	胃がんで手術を受ける患者の理解 川本	24	
10	胃がんで手術を受ける患者の看護 川本	25	
11	乳がん患者の看護 川本	26	
12	子宮がん患者の看護 川本	27	
13	肝機能に障害のある患者の理解 田中	28	
14	肝機能に障害のある患者の理解 田中	29	
15	肝機能に障害のある患者の看護 田中	30	

【履修上の注意事項】

成人看護学Ⅰ・Ⅱは、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱと直結した学習内容である。臨地実習は、看護の対象者と直接かわりを持ち実践行動を展開することで、理論と実践の結びつきを理解する重要な場面である。健康障害を持つ受け持ち患者様の回復過程を促進する看護を提供する前提は基礎的な知識と技術を身につけていることである。事前に教科書で各器の構造と機能を予習して望むこと、授業後は配布資料や教科書で復習をすること。

【評価方法】

評価基準は「試験 100%」で60点以上を合格とする。

【テキスト】

1. 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学【2】～【14】医学書院 2. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 3. 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版

【参考文献】

周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 系統看護学講座別巻2 臨床外科看護各論 医学書院. 看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA

成人看護学Ⅲ

担当教員 田中 紀美子、山本 みゆき

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

終末期患者の苦痛をトータルペインとしてとらえ、患者とその家族にとってできる限り良好なQOLを実現することを目標とする緩和ケアの基本を学ぶ。学習内容：1) 患者が抱く身体的・心理的・社会的・スピリチュアルペインを理解する。2) 患者の意思を尊重しながら、残された人生をその人らしく過ごすための看護について学ぶ。3) QOLを高めるための援助について学ぶ。4) 家族の不安や悲嘆を理解し、支援することの必要性を学ぶ。

【授業の展開計画】

1. ターミナルケア・緩和ケアの概念（死生観の必要性）非常勤講師（田中紀美子・山本みゆき）
2. スピリチュアルペインの理解 非常勤講師（田中・山本みゆき）
3. トータルペインとチームアプローチ 非常勤講師（田中・山本みゆき）
4. 身体的苦痛に対する援助（非常勤講師：田中紀美子）
5. 真実を伝える・コミュニケーションとは（非常勤講師：田中紀美子）
6. 精神的、社会的、スピリチュアルペイン（霊的苦痛）に対する援助（非常勤講師：田中紀美子）
7. 家族の悲嘆に対する援助（グリーフワークの必要性）（非常勤講師：田中紀美子）
8. まとめ：命をめぐる対話―暗闇の世界で生きられますかのビデオ鑑賞後に自己の死生観について考える（非常勤講師：田中紀美子）

【履修上の注意事項】

緩和ケアスペシャリスト・緩和ケア教育のコーディネータ、ホスピスケアの啓蒙、教育に携わり、現在ヒーラーとして活躍中の山本みゆき氏を非常勤講師として3コマ依頼している。実践を通してのお話なので話をよく聞いて看護に生かしてほしい。事前・事後学習：与えられた課題についての学習とレポート作成を毎回行うこと。

【評価方法】

講義最終日の課題「ビデオの事例の評価と自己の死生観」についてのレポート提出。100%評価。60点以上（100点満点）を合格とする。なお、再試験は施行しない。

【テキスト】

系統看護学講座 別巻「緩和ケア」医学書院。田中作成 講義プリント

【参考文献】

「命をめぐる対話」暗闇の世界で生きられますか：ノンフィクション作家 柳田邦男氏（NHKドキュメンタリ番組）⇒学生自身の死生観を考えるための導入に用いる

成人看護学実習 I

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、喜多 麻衣子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し行動できる基礎能力を養う。

実習 I は周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解することができる。

【授業の展開計画】

1. 病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解を深める。
2. 患者情報を系統的に収集し手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し看護計画を立案する。最善の状態が手術が受けられるように準備を整える。
3. 手術後の危機状態にある患者に対して、生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案できる。
4. 回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行う。
6. 周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価する。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。

＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。

講義資料や教科書で事前学習を行ったうえで実習に臨む。

実習後は看護の振り返りを行い、指導を受けてケアの意味づけを行う。

体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

指導教員、実習指導者の総評をもとに、総合的に評価する。

評価基準は、実習評価表に基づき

「受持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

【テキスト】

系統看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総

論 医学書院の教科書および講義資料。

【参考文献】

周手術期看護論 NOUERU HIROKAWA. 系統看護学講座別巻2 臨床外科看護各論 医学書院. 看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA

公衆衛生看護学概論

担当教員 福本 久美子、中川 武子、未定

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけを理解し、公衆衛生看護学の基本的理念と目的、その対象や活動方法の特性について、基本的な知識と考え方を学習し、公衆衛生看護学の全体像を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	福本	看護学における地域看護と公衆衛生看護の位置づけ、継続看護
2	福本	公衆衛生看護学の理念と目的
3	福本	公衆衛生看護学の歴史
4	(未定)	公衆衛生看護の対象
5	中川	社会環境の変化と健康課題 1
6	福本	社会環境の変化と健康課題 2
7	福本・中川・(未定)	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW)
8	(未定)	保健行動と保健活動
9	(未定)	保健行動とヘルスリテラシー (がん検診受診行動から)
10	福本・中川・(未定)	保健師活動事例を読み解き、公衆衛生看護と保健師の役割を学ぶ(GW発表)
11	福本・中川・(未定)	GW(公衆衛生看護と保健師)のまとめ、コミュニティエンパワメント
12	中川	公衆衛生看護学の活動分野の特徴と広がり
13	福本(外部)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴 (行政・福祉)
14	福本(外部)	公衆衛生看護学の活動分野の特徴 (産業)
15	福本・中川・(未定)	公衆衛生看護学の活動方法、国際協力、授業まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 講義の予習復習を行うこと。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。
- 3) 学外での公衆衛生看護学関連の講演会等 (紹介) に積極的に参加すること。

【評価方法】

レポート20点 (止むを得ない場合を除き、期日まで提出がない場合は減点)、GW20点、試験60点

【テキスト】

1. [公衆衛生看護学] 荒賀直子他編集 インターメデカル
2. [国民衛生の動向] 厚生統計協会

【参考文献】

1. 「健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか」 近藤克則著, 医学書院
2. 「保健師—普通を守る仕事の難しさ—」 荘田智彦著, 家の光協会
3. 「そよ風と暮らしと健康」 熊日出版
4. その他随時紹介。

成人看護学実習Ⅱ

担当教員 福島 和代、未定、川本 起久子、喜多 麻衣子、島村 美香

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。

成人看護実習Ⅱでは、慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、患者と家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護が展開できる。

【授業の展開計画】

1. 慢性の疾患は主に生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境（自然・社会・文化）の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解する。疾患の診断・治療に必要な検査の目的・意義を理解し、看護の役割を学ぶ。
2. 患者情報を系統的に収集し慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントし看護問題を明確化する。
3. 患者と家族の強み（主体的に病気を管理できるようなポジティブな面）を生かした看護計画を立案する。
4. 患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践する。
5. 退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するために患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行う。
6. 慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価できる。
7. 看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

＜臨地実習計画＞

1週目の主な学習内容	コミュニケーション 情報収集 アセスメント 看護問題 計画の明確化
2週目の主な学習内容	看護介入 評価 計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	看護過程の評価

【履修上の注意事項】

実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。
講義資料や教科書で事前学習を行ったうえで実習に臨む。
実習後は振り返りを行い、指導を受けて看護の意味づけを行う。
体調管理を行い、流行性疾患に罹患しないよう注意する。

【評価方法】

担当教員、実習指導者の総評をもとに総合的に評価する。
評価基準は、評価表に基づき「受持ち患者の看護過程の展開と実習記録 80%、チームの一員としての行動 20%」とし、60点以上を合格とする。

【テキスト】

系統別看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 糖尿病食品交換表 第7版 の教科書及び講義資料。

【参考文献】

看護師・看護学生のためのレビューブック MEDIC MEDIA. 病態生理ビジュアルマップ 医学書院. 病気がみえる MEDIC MEDIA. 慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA. 患者教育のポイント 医学書院. 今日の治療薬 南江堂.

老年看護学 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、柿山 英津子、前原 朝子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. ライフサイクルの中で老年者をとらえ、老年者の特徴とその健康生活について理解できる。
2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。
3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。
4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。
5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	導入・講義概要の説明・老年看護学の成り立ち（高齢者インタビュー課題の説明含む）	生野
2	高齢者の尊厳・高齢社会の変遷と高齢者の現状	生野
3	高齢者の保健医療福祉制度の変遷と世界の高齢化の現状	生野
4	高齢者の理解①老化の考え方・老化の特徴・感覚器の老化	生野
5	②運動器・筋・骨格の老化	山本
6	③循環器・呼吸器・消化器等の老化	生野
7	④精神・心理・社会的側面の老化	生野
8	⑤口腔・歯牙の老化とケア	前原
9	介護保険制度の理解①理念・保険者・被保険者・認定	生野
10	②サービスの種類と看護師の役割	生野
11	③地域包括ケアと制度の今後	生野
12	高齢者ケアの場と協働 病院・施設・在宅の連続性と多職種協働	柿山
13	高齢者ケアの問題点 一人暮らしの増加・老々介護・高齢者虐待・家族支援	生野
14	高齢者の望む晩年の過ごし方・望まれる終末期ケアの在り方	生野
15	高齢者のフィジカルアセスメントとインタビューレポートについて・まとめ	生野

【履修上の注意事項】

- ・ 3年次臨地実習である老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、および看護統合実習の先修科目である。
- ・ 第1回講義時に高齢者インタビューとアセスメントの視点を説明するので、具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。
- ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読しておくこと。
- ・ 講義時にミニテスト（学習用）を実施する。必ず復習しておくこと。

【評価方法】

期末定期試験90%、課題レポート10%の割合で評価する。

【テキスト】

1. 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メジカルフレンド社
2. 「国民衛生の動向 2016/2017」厚生労働統計協会（1年次購入済み）

【参考文献】

1. 「高齢者の健康と障害」堀内ふき編 メディカ出版
2. 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院

老年看護学Ⅱ

担当教員 山本 恵子、柿山 英津子、生野 繁子、樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

老年者に多くみられる症状・疾患の特徴を理解し、健康課題を見出すためのアセスメントができる。また、老年者における手術療法、薬物療法など治療上の注意点とケアが理解できる。さらに認知症の症状や終末期・看取りのケアについて説明ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	老年者の疾患の特徴：予備力低下、個別性など(山本)
2	老年者の入院・検査：入院経路、検査時の注意など(山本)
3	老年者の手術・退院：低体温・熱中症、掻痒、シームレスケアなど(山本)
4	老年者の薬物療法：多剤併用、代謝低下、管理(樋口)
5	老年者に多い疾患：白内障、前立腺肥大症、誤嚥性肺炎など(山本)
6	老年者に多い疾患：骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折など(山本)
7	症状アセスメント：低栄養、浮腫、電解質代謝異常など(生野)
8	症状アセスメント：不眠、失禁、便秘、難聴(山本)
9	高齢者ケア：高齢者看護の実際(特別講義)
10	演習：老年者へのインタビュー(山本、生野、柿山他)
11	演習：老年者のヘルスアセスメント：アセスメント(山本)
12	老年者のヘルスアセスメント：対象理解に向けた老年者のアセスメント(山本)
13	終末期のケア：エンド オブ ライフケア(生野)
14	認知症とは：医学的視点での理解(柿山)
15	認知症の看護：認知症ケア(柿山)

【履修上の注意事項】

- ・講義中の私語が多い場合は、座席指定とします。チャイムが鳴り終わるまでに着席してください。
- ・演習も入れながら講義を行います。必要物品は事前に連絡します。
- ・出席は、毎回のレポートがなければ携帯登録があっても無効です。
- ・事前学習：老年看護学Ⅰを十分に復習しておくこと。授業展開を参考に教科書を熟読して受講してください。
- ・事後学習：毎回、教科書やプリントを参考に各自復習し理解をするようにしましょう。

【評価方法】

演習：10% 試験：90%

【テキスト】

『ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実際』. 堀内ふき他. MCメディカ出版. 2016.

【参考文献】

『生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程』. 奥宮暁子他. 医薬出版株式会社. 2012.

老年看護学実習 I

担当教員 生野 繁子、山本 恵子、柿山 英津子

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的 介護老人保健施設における医療・機能訓練・看護が必要な利用者への理解を深め、健康課題に対するケアの在りかたを学ぶ。

実習目標 実習要項を参照すること

【授業の展開計画】

介護老人保健施設における実習2週間を設定している。詳細は実習要項を参照すること。

施設 :実習施設一覧を参照すること

実習配置:5～6施設に2～6名ずつ配置する。

□□

2週間の実習スケジュールは実習要項に記載している。

【履修上の注意事項】

1. 実習要項を熟読し、準備段階から主体的かつ積極的に学ぶこと。
2. 実習要項に記載している事前学習を十分に実施しておくこと。
3. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
4. 臨地において当日の実習計画がないものは実習できない。
5. 実習終了後には、老年看護学領域の国家試験過去問題を解いてみること。

【評価方法】

実習評価表に基づいて、老年期の特徴理解（10%）、アセスメント（30%）、社会復帰の理解（5%）、ケアサービスの理解（30%）、職業倫理（25%）の割合で評価する。

【テキスト】

老年看護学 I・II で使用したもの

【参考文献】

1. 老年看護学 I・II の参考文献
2. 基礎看護学のテキスト
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学 I・II・III のテキストなど

老年看護学実習Ⅱ

担当教員 山本 恵子、生野 繁子、柿山 英津子

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的 介護老人福祉施設におけるケアサービスを通して、施設の利用者への理解を深め、健康課題に対するケアのあり方を学ぶことができる。

実習目標 高齢者とのコミュニケーションを図ることができる。施設利用者の家族状況が理解できる。
高齢者の健康課題をアセスメントし、必要なケアを安全に実施することができる。
高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる(詳細は臨地実習要項参照)

【授業の展開計画】

介護老人福祉施設における臨地実習2週間を設定している。施設名および進め方の詳細などは臨地実習要項参照。

実習配置:実習クール毎に、各施設に2～6名ずつ学生を配置し実習を行う。

進め方 : 1週目の月火 …入所または通所でのケアの理解、多職種のケア経験、受け持ち利用者の決定
1週目の水木 …受け持ち利用者の情報収集、ケアなど
1週目の金 …学内で施設ケア理解の確認、利用者アセスメント、個別指導
2週目の月～木 …受け持ち利用者のケア
2週目の金 …他の施設での学びを共有、学びの確認、個別面接

【履修上の注意事項】

1. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。
2. 高齢者に対する尊厳および臨地実習要項に記載してある実習上の注意などを熟読し主体的かつ積極的に実習に臨むこと。
3. 事前学習: 臨地実習要項の項目および看護技術など実習に必要な関連科目の復習
4. 事後学習: 実習での学びを各自振り返り、自身の課題を整理し次の実習につなげる

【評価方法】

臨地実習要項に掲載している実習評価表に基づいて、コミュニケーション20%、高齢者アセスメント35%、ケアサービス25%、職業倫理20%で評価する。

【テキスト】

老年看護学Ⅰ・Ⅱと同様。

【参考文献】

1. 老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義において配布した資料および参考文献
2. その他既習のテキスト

精神看護学 I

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志、杉本 啓介

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 精神医療における治療の考え方を知るとともに、精神医療の歴史と現代社会における「心のケア」の特徴について理解する。
2. 主な理論が捉える人間の心のはたらきを人格という観点から概観し、精神的危機への援助を理解する。
3. 精神医療における治療の意味を看護の視点から捉え、精神症状とおもな治療について理解する。
4. 地域精神保健活動やチーム医療における精神看護の役割と課題について考える。

【授業の展開計画】

1. 精神障害の基本的考え方を知り、現代の精神保健および心の働きについて理解する。(戸田)
2. 人格の発達理論について学習し、ライフサイクルと精神的危機への援助について理解する。(緒方)
3. 欧米の精神医療の歴史的特徴からその時代の精神障害者に対する処遇の実態を知る。(戸田)
4. 日本の精神医療の歴史において精神保健福祉に関する法律がどのように成立してきたか理解する。(戸田)
5. 社会のなかの精神障害について理解する(法律、尊厳、人権、倫理)。(緒方)
6. 精神疾患を理解するために脳の機能と構造について学ぶ。(杉本)
7. 精神医療における精神障害の診断と分類および主な疾患について理解する。(杉本)
8. 精神医療における主な疾患の症状と治療についての考え方について理解する。(杉本)
9. 精神医療における主な検査および心理療法について学ぶ。(戸田・緒方)
10. 統合失調症患者の看護について学ぶ。(緒方)
11. 気分障害者患者の看護について学ぶ。(戸田)
12. その他の精神疾患患者の看護について学ぶ。(戸田)
13. 精神科病院における行動制限と法的根拠および看護の実際について学ぶ。(緒方)
14. 精神科における身体ケアの必要性および実際の援助について理解する。(戸田)
15. 精神医療における治療と看護についてのまとめ。(戸田・緒方)

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読みキーワードを押さえ自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。その日の講義で分からなかったことを明らかにして自ら疑問を解決する。

【評価方法】

定期試験80%、レポート等の提出物20%

【テキスト】

- 1) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の基礎、精神看護学①、医学書院 2017.
- 2) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の展開、精神看護学②、医学書院 2017.

【参考文献】

- 1) 川野雅資：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規出版(株)、2011.
- 2) 太田保之、上野武治編集：学生のための精神医学、医歯薬出版、第2版、2000.

精神看護学Ⅱ

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 精神症状に対する看護援助の特徴と意義を理解し、患者がどのような点で生きにくさを感じているのか理解する。
2. 入院から退院までの治療および看護について理解する。
3. 精神障害とうまく付きあいながら地域で生活するために必要な社会資源などについて理解する。
3. 精神看護における看護過程の展開について理解する。

【授業の展開計画】

1. 精神科におけるケアについて学ぶ。(戸田)
2. 精神看護学で用いるおもな理論とプロセスレコードについて学ぶ。(戸田・緒方)
3. プロセスレコードの活用方法について学ぶ。(戸田・緒方)
4. 自己の体験した援助場面を一定の記載方法に基づいてプロセスレコードに再構成することができる。(戸田・緒方)
5. 当事者の話から対象者理解および精神看護について学ぶ。(特別講師)
6. 精神科看護過程について学ぶ(情報収集および情報の整理)。(戸田・緒方)
7. 精神科看護過程について学ぶ(アセスメント、問題点の抽出、看護計画立案)。(戸田・緒方)
8. 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際①)。(戸田・緒方)
9. 精神科看護過程について学ぶ(看護過程の実際②)。(戸田・緒方)
10. 精神科で行う治療プログラムについて学ぶ。(コミュニケーション技法、作業療法、認知行動療法)(緒方)
11. 精神科リハビリテーションと外泊・退院の援助について理解する。(戸田)
12. 継続看護の必要性と地域精神看護および社会資源の活用について理解する。(精神科訪問看護、精神科デイケア)(戸田)
13. リエゾン精神看護および看護師のメンタルヘルス。(緒方)。
14. グループでまとめた看護過程について発表し、精神科看護過程について理解を深める。(戸田・緒方)
15. 精神看護の目的と対象者についてまとめる。(戸田・緒方)

【履修上の注意事項】

指定した教科書をよく読み、キーワードを押さえ、自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと。講義内容は専門性が高いので、学生の理解度に合わせて授業の展開方法を変更することがある。グループ・ワーク形式においては、積極的に参加し理解を深めること。

【評価方法】

定期試験80%、レポート等の提出物20%

【テキスト】

- 1) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護学の基礎、精神看護学の展開、医学書院 2017.
- 2) 白石壽美子：全人的視点にことづく精神看護過程、医歯薬出版(株) 2014.

【参考文献】

- 1) 長谷川雅美：自己理解・対象理解を深める『プロセスレコード』、日総研出版 2009.
- 2) 岡田佳詠：看護のための認知行動療法、医学書院 2011.

精神看護学実習

担当教員 戸田 岳志、緒方 浩志

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実習目的は、精神看護学で学んだ知識をもとに、精神症状によって「生きにくさ」を感じている対象者と家族への援助の必要性を認識し、その対象者に合った援助を実施・評価すること。また、これらの援助を通して精神保健看護に必要な基本的能力を養うこととする。実習目標は、実習要項を参照すること。

【授業の展開計画】

精神医療施設における実習2週間を設定している。詳細については、実習要項を参照すること。

施設名：荒尾こころの郷病院, 向陽台病院, 城ヶ崎病院, 山鹿回生病院（50音順）

実習配置：5グループのローテーションとする。

- ・4病院に分け、さらに各病棟2～4名ずつの配置とする。
- ・施設における実習を主とし、学内日は別途指示した日とする。

【履修上の注意事項】

1. 6月中旬に提示する事前学習項目に沿って学習し、レポートを作成し提出する。事前学習をした内容は実習中に活用すること。
2. 事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。（日程は後日掲示する）
3. 自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。

【評価方法】

実習評価表に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

精神看護学Ⅰ、Ⅱの講義で使用したもの。

【参考文献】

1. 精神看護学Ⅰ、Ⅱの参考文献
2. 基礎看護学のテキスト、
3. 成人看護学のテキスト
4. 病態生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのテキストなど。

母性看護学 I

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間の健康を性と生殖に関する側面から捉え、母性看護学の基盤となる概念について理解できる。

また、母性看護の現況と動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。

女性の生涯における発達課題と諸問題を理解した上で、母性看護の具体的な支援のあり方について述べるができる。

【授業の展開計画】

- 母性看護学の基盤となる概念や、母性看護領域における対象となる人々の特徴や健康現象についての基礎知識を修得する。
- 人間の健康を性と生殖の側面から捉え、人生の各ステージにおけるセクシュアリティについて理解する。
- 現代女性のライフサイクル各期における健康の諸問題やニーズを理解し、個人や家族に対しての健康支援のあり方について学習する。

週	授 業 の 内 容	
1	母性看護の概念とその特質(母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい、)	緒方
2	人間の性と生殖 1 (人間の性の特徴・性行動、人生の各ステージのセクシュアリティ)	緒方
3	人間の性と生殖 2 (セクシュアリティの発達と課題, 性的マイノリティ, ヒトにおける性の決定)	緒方
4	女性生殖器の構造と機能(性周期とホルモン動態)、受胎のメカニズム	緒方
5	社会と母性保健(1)生活環境、母子保健統計の動向・母子保健行政のあゆみ、関係法規、	緒方
6	社会と母性保健(2)母子保健施策、母子健康手帳、女性の労働と子育て、母性看護の場と職種	緒方
7	母性看護の沿革と現況 (日本の母性看護の発達—近代以前、近代以降、現代)	緒方
8	リプロダクティブヘルス・ライツ (妊娠をめぐる女性の選択、母性看護における看護倫理)	牛之濱
9	家族計画、避妊(受胎調節法と避妊法)	牛之濱
10	女性・家族のライフサイクル(現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族の発達段階)	緒方
11	女性のライフステージ各期の特徴と保健(1) (思春期)月経異常、性感染症、人工妊娠中絶	緒方
12	女性のライフステージ各期の特徴と保健(2) (成熟期)育児不安、DV、産後うつ、喫煙	緒方
13	女性のライフステージ各期の特徴と保健(3) (更年期・老年期)更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症	緒方
14	出生前診断を受けるカップルの看護ケア、不妊カップルの理解と看護	緒方
15	ハイリスクな状況にある人々への看護(危機援助、ハンディキャップをもつ母子への看護)	緒方

【履修上の注意事項】

出席は重視します。出席できない事情があるときには必ず申し出て下さい。

講義初日に、授業展開日程表を配布するので、その分野を予習・復習しておくこと。

授業中に練習問題を配布するので、それに関連する分野を予習・復習して期末テストに備えること。

【評価方法】

1. 期末試験 原則100%です。
2. レポートの提出がなければ減点することもあります。

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1]、医学書院』、『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護[2]、医学書院』、『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学9]、医学書院』

【参考文献】

国民衛生の動向、前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性 I、母性 II』, 中央法規

母性看護学Ⅱ

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代、森口 範子、渡邊 弥生

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

周産期にある母子やその家族に生じるさまざまな変化と変化に伴う対象の反応を学び、セルフケア能力を高める援助、健康逸脱時のケア、安全な母性看護技術、看護過程の展開技術などについて修得することができる。

【授業の展開計画】

周産期は、女性のライフステージの中で最もダイナミックな身体的変化を起こす。母体の健康状態は、母体のみならず胎児・新生児の発育や健康状態にも直接影響を及ぼす可能性が高い。この科目では、周産期における母性・胎児・新生児の健康保持・増進・異常の予防(保健相談、管理、臨床的な看護技術)を修得する。また、ハイリスクな状況にある人々への看護(妊娠・分娩期におこりやすい主な異常や疾患と看護、産褥・新生児期に起こりやすい異常や疾患と看護)を理解する。

週	授 業 の 内 容
1	妊娠期の看護Ⅰ：(妊娠成立と妊娠に伴う母体や胎児の変化、妊娠期の心理・社会的特性) 牛之濱
2	妊娠期の看護Ⅱ：(妊婦と胎児の健康アセスメント、妊婦の健康管理、妊婦の日常生活とセルフケア) 牛之濱
3	妊娠期の看護Ⅲ：(妊婦と家族の看護、親になるための準備教育) 牛之濱
4	分娩期の看護Ⅰ：(分娩の三要素と正常分娩の臨床経過) 渡邊
5	分娩期の看護Ⅱ：(分娩第1, 2, 3期及び分娩直後の看護、産婦の安楽及び家族に対する看護) 渡邊
6	新生児期の看護Ⅰ：(子宮外適応過程機序、新生児の身体的特徴と看護、新生児期の異常含む) 森口
7	新生児期の看護Ⅱ：(新生児の栄養、児との関係確立への援助) 森口
8	産褥期の看護Ⅰ：(産褥期の生理と臨床経過) 全身・子宮復古、乳汁分泌、産褥器の異常含む 緒方
9	産褥期の看護Ⅱ：(産褥期のケア) 産褥期の身体回復への看護、母乳哺育支援、母親適応過程 緒方
10	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅰ：(妊娠期の異常と看護) 流早産, 妊娠高血圧症候群等 牛之濱
11	ハイリスクな状況にある人々の看護Ⅱ：(分娩期の異常と看護) 微弱陣痛, 帝切, 異常出血等 牛之濱
12	妊産褥婦・新生児のケア技術演習 緒方、牛之濱、森口、渡邊
13	母性看護過程：(母性看護の特徴とウェルネス看護診断、事例による看護過程展開演習) 牛之濱
14	母性看護過程：(産褥初期の褥婦、新生児の看護事例展開演習、臨地実習で展開方法) 牛之濱
15	産褥期の看護Ⅲ：(産褥期の母子と家族に対する看護援助、育児支援) 緒方

【履修上の注意事項】

出席は重視します。出席できない事情があるときには必ず申し出て下さい。
講義初日に、授業展開日程表を配布するので、その分野を予習・復習して授業に臨んで下さい。
授業中に、演習のための課題レポートや練習問題を配布するので、それに関連する分野を予習・復習して、演習や期末テストに備えて下さい。

【評価方法】

1. 期末試験 原則100%です。
2. 再試験の際には、課題レポートの結果がよければ1～3%の平常点を追加することもあります。

【テキスト】

『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2] 医学書院』、『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1] 医学書院』、『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9] 医学書院』

【参考文献】

『太田操, ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版, 医歯薬出版. 2009』、『平澤美恵子, 村上睦子, 写真でわかる母性看護技術, インターメディカ』

母性看護学実習

担当教員 緒方 妙子、牛之濱 久代、森口 範子、渡邊 弥生

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、母性看護学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識・技術を実習を通して統合し、母性看護の特殊性を考慮した看護の実践ができる基礎能力や態度を養うことができる。

【授業の展開計画】

【教育目標】

1. 妊産褥婦とその家族にとっての子どもを産み育てることの意味と支援のあり方を考えることができる。
2. 親となる過程における健康課題・発達危機の状況を理解し、母児に対してどのような看護ケアが必要であるのかを理解することができる。
3. 妊産褥婦と児の健康状態および家族を含めた母児のニーズをアセスメントし、看護計画の立案・実施・評価ができる。
4. 地域社会における母児の健康サポートのあり方を学び、妊娠、分娩、産褥期にある母児とその家族を取り巻く社会システム・継続ケアについて学ぶことができる。
5. 母子保健チームの中での看護の役割とサービスのあり方を考えることができる。
6. Theme Reportやカンファレンスを通し、母性看護学の統合を図り、看護者としての問題提起や研究を行う素地を養うことができる。

【授業内容】

1. 出産前後の母児の受け持ちや外来を訪れる妊婦や母児との関わりを通して、妊産婦や母児の体験を学習する。
2. 看護師/助産師とともに行動し、妊産褥婦および新生児や家族に対してどのような看護ケアが行われているのかを学習する。
ex. 褥婦の観察・悪露交換・乳房ケア・授乳指導・新生児の観察・沐浴・育児支援・妊婦健診・胎児管理(NST)・母乳外来・母親学級など
3. 受け持ち対象母児の健康課題・健康問題について、情報収集・分析・看護計画の立案・実施・評価を行う。
4. Theme Reportやカンファレンス、教員との面接を通して周産期の対象理解や自己課題の学びを深める。

【履修上の注意事項】

出席は重視します。(欠席は減点評価になります。)

母性看護学実習の事前準備として、ワークブック(一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集)を仕上げ、実習直前にもその内容を復習して実習に臨んで下さい。

また、実習中の課題としてテーマレポートの作成がありますので、事前にテーマを決め、それに関する文献を読み、臨床での実践計画を立てて、事前チェックを受けてから実習に臨んで下さい。

【評価方法】

1. 実習態度(予習・復習、主体性、記録物の提出)12%
2. 毎日の実習記録(役割理解、看護過程、実践・記録)49%
3. Theme Report 30%、カンファレンスの運営および参加状況9%
4. 欠席・遅刻の状況によっては、減点が検討されることがあります。

【テキスト】

系統看護学講座『母性看護学概論, 母性看護学①』医学書院、系統看護学講座『母性看護学各論, 母性看護学②』医学書院、系統看護学講座『女性生殖器, 成人看護学⑨』医学書院、

【参考文献】

母性看護学のテキスト・参考文献, および講義・演習時の配布資料

関係法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、コメディカルの法的位置づけを理解する。
2. 医療専門職である看護師に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
3. 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
4. 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、看護師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	看護師と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	看護師と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——看護師の過失
11	身体拘束と看護事故——裁判例の分析、看護と介護
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療者の義務、医事法の構造と射程

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『コ・メディカルのための医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

適宜紹介する。

在宅看護学

担当教員 開田 ひとみ、落合 順子、北原 崇靖

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

在宅看護は、対象となる人々が病気や障がいを持っていても地域の中で自分らしく生き生きと生活できるように、その人々の尊厳を護り自立支援することが目的である。

そこで、本科目では在宅療養とその家族を支援するために必要な生活支援・生活の中における医療の継続・保健／医療／福祉の連携と地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能について理解し、在宅看護を展開するために必要な知識・技術・態度を習得できるように教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	在宅看護を学ぶための基礎知識（増田）	16	在宅看護介入：精神（落合）
2	在宅看護の対象と看護職の役割（増田）	17	在宅看護介入：認知症（開田）
3	在宅看護を取り巻く社会の動向（開田）	18	在宅看護介入：疼痛・終末期（開田）
4	在宅医療と訪問看護の仕組み（開田）	19	在宅看護共通基本技術：訪問技術等（増田）
5	地域包括ケアシステム（開田）	20	在宅看護共通基本技術：支援技術等（増田）
6	退院支援と退院調整（開田）	21	在宅看護生活支援技術：食事 等（増田）
7	在宅看護過程の特徴（増田）	22	在宅看護医療技術：褥瘡 等（落合）
8	在宅看護に活用できる理論（増田）	23	在宅看護過程：プロセス理解（増田・落合）
9	在宅看護の介入時期別特徴（増田）	24	在宅看護過程：事例の理解（増田・落合）
10	在宅看護における安全性と権利保障（増田）	25	在宅看護過程：情報収集（増田・落合）
11	在宅看護介入：小児期；対象理解（落合）	26	在宅看護過程：アセスメント（増田・落合）
12	在宅看護介入：小児期；介入方法（落合）	27	在宅看護過程：計画（増田・落合）
13	在宅看護介入：慢性呼吸不全（落合）	28	在宅看護過程：実施（増田・落合）
14	在宅看護介入：脳卒中後遺症（落合）	29	在宅看護過程：評価（増田・落合）
15	在宅看護介入：難病（増田）	30	学習のまとめ（増田）

【履修上の注意事項】

- ・事前に配布された資料を基に予習を行い、講義内容は毎回各自復習した上で受講すること。
- ・特に、在宅看護過程に関する学習は、学習進度に応じて事前学習課題を提示するので、指定された時期迄に事前学習して受講し、受講後は授業内容を振り返り（復習）事前学習で不足していた内容は再度学習（追学習）して、次の授業に望むこと。

【評価方法】

- ・客観テスト : 80%
- ・課題レポート : 20%

【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院

【参考文献】

- ・適宜提示

在宅看護論実習

担当教員 開田 ひとみ、落合 順子、北原 崇靖

配当年次 3年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域で生活しながら療養する人々とその家族に在宅で提供する看護の実際を訪問看護ステーションを中核とした実践活動から理解し基礎的な看護技術を身につけ、多職種と協働する中での看護の役割を再考できるように教授する。

【授業の展開計画】

【実習目的】

1. 人権尊重を基盤とした人の暮らしと、健康を創るための法律や関連機関との連携及び継続看護の重要性を実例から学ぶ。
2. 地域の中で健康障害をもちながら療養生活をする人々やその家族を理解し、在宅における看護の機能と役割について訪問看護師の実践活動から学ぶ。

【実習目標】

- 1) 在宅療養者とその家族の生活と主体性を尊重しQOLの向上をめざす看護活動を理解する。
- 2) 在宅療養者とその家族への援助の実際を通して訪問看護の役割とその援助方法を理解する。
- 3) 在宅看護に必要な社会資源の活用とケアマネジメントの重要性を理解する。
- 4) 在宅看護に関連する保健・医療・福祉専門職との連携の重要性と看護職の役割を理解する。
- 5) 看護を展開する上での自己課題を明確にすることができる。

【実習展開】

「臨地実習要項」参照

【履修上の注意事項】

- ・科目「在宅看護論」を必ず単位修得しておくこと。
- ・科目「在宅看護論」の授業内容を復習しておくこと。
- ・実習開始前に提示される課題と学習項目については予習を行い、提出期日迄に必ず提出すること。
- ・「臨地実習要項」を実習開始迄に熟読し、実習中体験した内容は既習内容と照合しながら毎日復習すること。

【評価方法】

- ・実習全般の態度／実習記録：80%
- ・課題レポート：20%

【テキスト】

- ・「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院
- ・科目「在宅看護論」で配布した資料や提示した参考文献

【参考文献】

- ・随時提示

看護マネジメント

担当教員 福島 和代

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

質の高い看護を提供するための看護サービスのしくみやサービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎知識を習得し、自分のキャリア発達について考えることができる。

【授業の展開計画】

看護におけるマネジメントは、対象者に提供する最適なケアを調整・展開・評価することであり、そのための一連の活動である。対象者に提供される看護ケアのマネジメントと看護職が提供するサービス全体を組織としてとらえて提供する看護サービスのマネジメントがある。新人看護師であっても組織の一員として、専門職としての役割・責任が求められる。看護サービスを提供する専門職として必要な基礎知識を習得し、病院づくりのグループダイナミクスを通して自分のキャリア発達について考える。日時についての変更は、別途スケジュールを提示する。

週	授 業 の 内 容
1	看護マネジメントとは マネジメントのプロセス
2	看護管理過程 看護管理の歴史
3	組織の成り立ちと構造
4	看護のケア提供システム
5	医療関係職種とチーム医療
6	看護サービスと質の保障
7	リスクマネジメント (安全管理)
8	リスクマネジメント (感染管理) リーダシップとメンバーシップ
9	専門職と法・倫理
10	キャリア発達 レポート課題提示
11	医療制度と政策・診療報酬制度
12	グループワーク1：病院づくり (地域のニーズ、病院組織の理念、規模)
13	グループワーク2：病院づくり (どんな看護師を育てたいか)
14	グループワーク3：病院づくり (看護師のキャリア開発のためのシステム)
15	グループワーク4：病院づくり (全体発表、プレゼンテーション)

【履修上の注意事項】

教科書で事前学習をし、事後も講義資料と照らし合わせて復習をすること。グループワークでは、地域のニーズに応じた理想の病院づくりを行なうが、既成概念にとらわれない自由な発想を重んじる。事前に就職パンフレットや病院ホームページから情報収集して望むこと。

【評価方法】

評価基準は「課題レポート90%、発表10%」とし60点以上を合格とする。

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕医学書院

【参考文献】

系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践〔2〕医学書院。中西睦子編 看護サービス管理 医学書院、井部俊子/中西睦子監修：看護管理学習テキスト第1～8巻・別巻 日本看護協会出版会

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と加地亜
6	学校保健の対象・健康の基礎理論、実態
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・保健管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	学校保健活動・保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習、保健指導、学習指導要領
15	学校保健活動・性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておく。
授業の復習を行うこと。振り返りのための課題を授業の最後に提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。毎回授業の最初に前時のまとめを提出する。

【評価方法】

筆記試験90%、レポート10%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック第5次改定 教員養成系大学保健協議会
冊子「学校保健」松本敬子編、

【参考文献】

新訂版 学校保健実務必携 第一法規

養護概説

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の4機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校運営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能化するかを述べるができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性
4	養護教諭の活動拠点保健室—その役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室—保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践—1 健康実態・健康問題の把握（健康観察・保健調査）
8	養護教諭の実践—2 健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践—3 支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践—4 支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践—5 養護活動の展開
12	養護教諭の実践—6 環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践—7 健康教育活動（保健指導、保健学習、保健だより）
14	養護教諭の実践—8 組織活動
15	養護教諭と研究、養護教諭の倫理

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業に向けた課題を出すので、それについて調べておくこと。
各回の授業では振り返りを行い、それを授業後にまとめること。

【評価方法】

レポート15%、筆記試験85%として評価

【テキスト】

- ・養護学概論 編者 岡田加奈子、河田史宝 東山書房
- ・「新訂版学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規

【参考文献】

冊子「学校保健」松本敬子編、「養護教諭の授業づくり」松本敬子他 東山書房

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、保健室でも心身両面の対応が養護教諭の重要な職務として位置づけられていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」について理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べるができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	自走生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)
8	健康相談での心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題のとらえ方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 非社会的行動、反社会的行動、生活上の課題を持つ事例
14	保健室登校と不登校のとらえ方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 大谷尚子・森田光子編 東山書房

【参考文献】